

都市計画史

Planning History

2017

第3回 都市計画家・石川栄耀のレガシー

「都市」探求の都市計画とは？

2017年10月16日

中島 直人

講義のスケジュール

－ 導入

9月25日 第1回 導入：なぜ、都市計画史なのか

－ 近現代日本の都市計画史

10月2日 第2回 日本における「都市計画」の誕生と官庁プランナーたち
10月16日 第3回 都市画家・石川栄耀のレガシー
10月23日 第4回 若き高山英華と都市計画学の生成
10月30日 第5回 敗戦・復興、そして都市計画の民主化
11月6日 第6回 高度経済成長期の東京と山田正男
11月13日 第7回 東大都市工の誕生と東大紛争
11月20日 第8回 建築家・大高正人の都市デザイン
11月27日 第9回 田村明と横浜の都市づくり

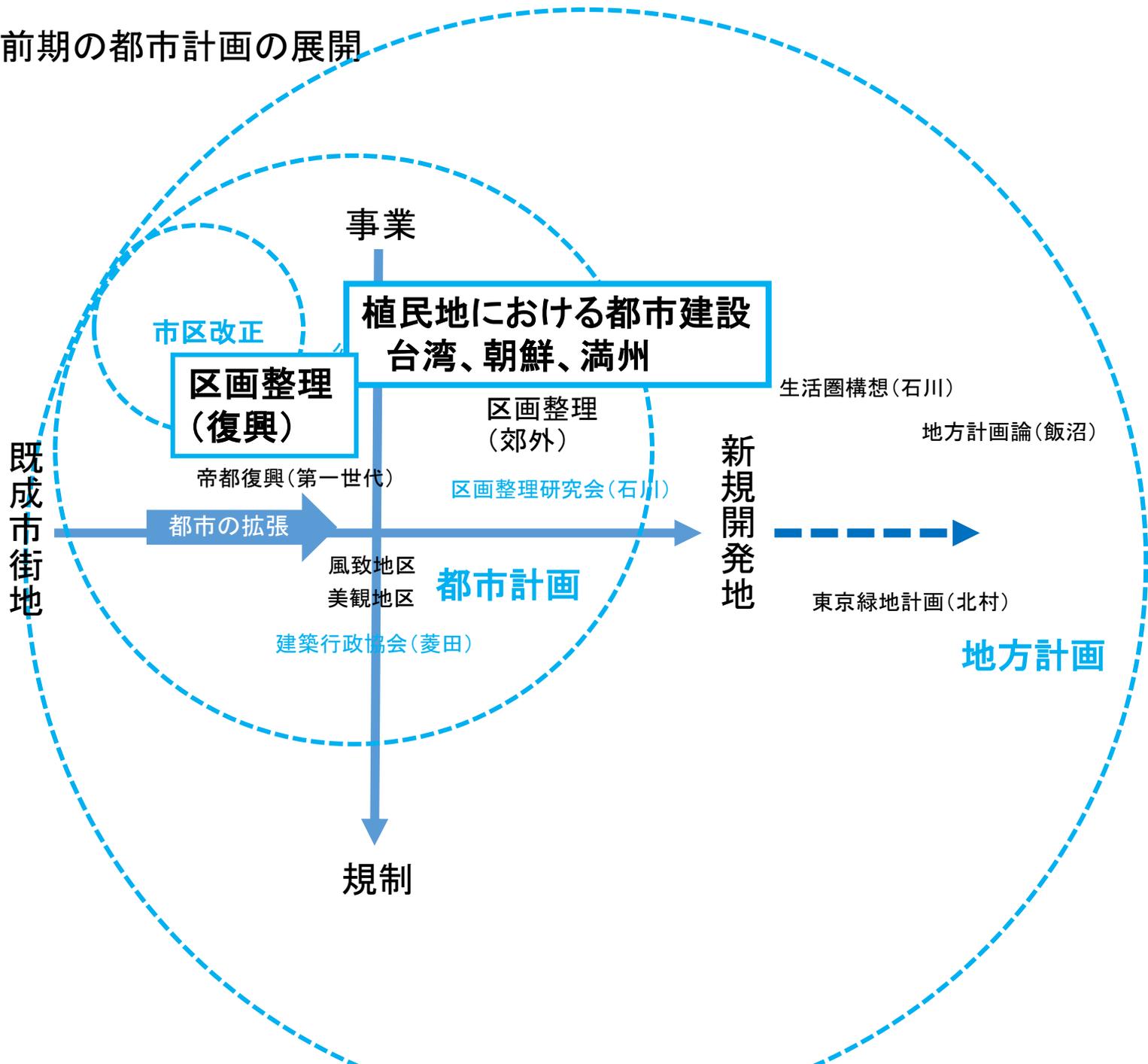
－ 都市計画史の現場

12月4日 第10回 東日本大震災と都市計画史
12月11日 第11回 地域に向き合う都市計画史
12月18日 第12回 「パブリック都市計画史」への展望

－ 学生発表（予定）

1月15日 第13回 都市計画史をひらく（仮）

戦前期の都市計画の展開



事業

植民地における都市建設
台湾、朝鮮、満州

市区改正

区画整理
(復興)

帝都復興(第一世代)

都市の拡張

区画整理
(郊外)

区画整理研究会(石川)

生活圈構想(石川)

地方計画論(飯沼)

新規
開発地

東京緑地計画(北村)

地方計画

既成
市街地

風致地区
美観地区

都市計画

建築行政協会(菱田)

規制

第一世代
都市計画
法制定期

法律

官の系譜

土木

建築

造園

池田 宏

(1881-1939)

山田博愛

(1880-1958)

笠原敏郎

(1882-1969)

内田祥三

(1885-1972)

折下吉延

(1881-1966)

『都市公論』

帝都復興

計画局長

第一技術課長
⇒第一出張所長

第二技術課長⇒
建築部長

技師⇒公園課長

1930's

第二世代
都市計画
実践期

飯沼一省

(1892-1982)

榎本寛之

(1890-1956)

石川栄耀

(1894-1955)

菱田厚介

(1894-1954)

北村徳太郎

(1895-1964)

1940's

戦災復興

『新都市』

東京都

山田正男

(1913-1995)

『区画整理』

『建築行政』

『公園緑地』

1950's

第三世代
都市計画
隆盛期

今野博

(1922-)

東大

井上孝

(1917-2001)

早稲田

武基雄

(1910-2005)

東大

高山英華

(1910-1999)

京大

西山卯三

(1911-1994)

佐藤昌

(1903-2003)

1960's

学の系譜

都市工学科

浅田孝

(1921-1990)

田村明

(1926-2010)

自治体

東大同期



公団

『都市計画』

早稲田

京大

佐藤昌

(1903-2003)

丹下健三

(1913-2005)

吉阪隆正

(1917-1980)

井上孝

(1917-2001)

東京都

山田正男

(1913-1995)

飯沼一省

(1892-1982)

榎本寛之

(1890-1956)

石川栄耀

(1894-1955)

菱田厚介

(1894-1954)

北村徳太郎

(1895-1964)

池田 宏

(1881-1939)

山田博愛

(1880-1958)

笠原敏郎

(1882-1969)

内田祥三

(1885-1972)

折下吉延

(1881-1966)

『都市公論』

帝都復興

計画局長

第一技術課長
⇒第一出張所長

第二技術課長⇒
建築部長

技師⇒公園課長

1930's

第二世代
都市計画
実践期

飯沼一省

(1892-1982)

榎本寛之

(1890-1956)

石川栄耀

(1894-1955)

菱田厚介

(1894-1954)

北村徳太郎

(1895-1964)

1940's

戦災復興

『新都市』

東京都

山田正男

(1913-1995)

『区画整理』

『建築行政』

『公園緑地』

1950's

第三世代
都市計画
隆盛期

今野博

(1922-)

東京都

山田正男

(1913-1995)

『都市計画』

早稲田

武基雄

(1910-2005)

東大

高山英華

(1910-1999)

京大

西山卯三

(1911-1994)

佐藤昌

(1903-2003)

1960's

学の系譜

都市工学科

浅田孝

(1921-1990)

田村明

(1926-2010)

自治体

東大同期



公団

『都市計画』

早稲田

京大

佐藤昌

(1903-2003)

丹下健三

(1913-2005)

吉阪隆正

(1917-1980)

井上孝

(1917-2001)

東京都

山田正男

(1913-1995)

飯沼一省

(1892-1982)

榎本寛之

(1890-1956)

石川栄耀

(1894-1955)

菱田厚介

(1894-1954)

北村徳太郎

(1895-1964)

池田 宏

(1881-1939)

山田博愛

(1880-1958)

笠原敏郎

(1882-1969)

内田祥三

(1885-1972)

折下吉延

(1881-1966)

『都市公論』

帝都復興

計画局長

第一技術課長
⇒第一出張所長

第二技術課長⇒
建築部長

技師⇒公園課長

1930's

第二世代
都市計画
実践期

飯沼一省

(1892-1982)

榎本寛之

(1890-1956)

石川栄耀

(1894-1955)

菱田厚介

(1894-1954)

北村徳太郎

(1895-1964)

1940's

戦災復興

『新都市』

東京都

山田正男

(1913-1995)

『区画整理』

『建築行政』

『公園緑地』

1950's

第三世代
都市計画
隆盛期

今野博

(1922-)

東京都

山田正男

(1913-1995)

『都市計画』

早稲田

武基雄

(1910-2005)

東大

高山英華

(1910-1999)

京大

西山卯三

(1911-1994)

佐藤昌

(1903-2003)

1960's

学の系譜

都市工学科

浅田孝

(1921-1990)

田村明

(1926-2010)

自治体

東大同期



公団

前回の授業に対するコメントから

「都市計画区域という制度、考え方は日本だけなの
でしょうか？いずれにせよ、その理由があるのでしょ
うか？」

「官僚プランナーの図の中で造園の矢印が、途中で
とだえているが、それは造園が都市計画の分野の1
つではなくなったという意味なのか、そもそも造園が
行政の分野からなくなったのか、どちらでしょう
か？」

前回の授業に対するコメントから

「現代のような環境が整い、様々な価値観が混在する都市において、官庁プランナーはどのような考えをもって都市に向き合えばいいのでしょうか」

「行政や不動産会社などが主体的に地主を巻き込みながら都市計画を行うようになってきた動機は何だったのでしょうか」

前回の授業に対するコメントから

「都市計画法の初期の課題に、計画概念を欠いているとあったが、それに従って都市計画を行うということは、しっかりした目的を持たずにとりあえず整備するということになってしまうと考えられるが、例えば帝都復興の区画整理事業はどういう理想や目的を持って行われたのか」

「現在は人口が減少していく過程にあり、隙間だらけの都市というこれから生まれる遺産はどうすべきなのか」

前回の授業に対するコメントから

「もし地方に合わないことが多くあったなら、なぜ中央からのトップダウンの制度を変えなかったのですか」

「現在は人口が減少していく過程にあり、隙間だらけの都市というこれから生まれる遺産はどうすべきなのか」

「東大に造園科ができなかったのは何か理由があるのでしょうか」

講義のねらい

都市計画家として強烈な個性を有し、日本の都市計画の確立に大きく貢献した石川栄耀の思想と実践を現在的な視点から読み解くことを通じて、都市計画の本質論に触れてみたい。

石川栄耀(いしかわひであき、通称えいよう 1894—1955)

- 1918年 東京帝国大学工科大学土木学科卒
- 1920年 内務省入省、名古屋都市計画地方委員会技師
- 1923年 欧米長期出張、IFHPアムステルダム会議出席
- 1926年 都市創作会、理事
- 1933年 都市計画東京地方委員会技師
- 1943年 東京都計画局道路課長
- 1945年 東京都計画局都市計画課長
- 1948年 東京都建設局長
- 1951年 早稲田大学理工学部教授

・名古屋で土地区画整理事業で実績をあげるとともに、都市創作会を組織し、都市計画研究・言論活動を活性化。「手段としては区画整理。精神としては小都市主義。態度としては都市味倒。」「都市創作宣言」『都市創作』、5巻10号、1929年

・数多くの著作、巧みな講演、そして分野を超えた豊かな交流と実践活動によって、我が国都市計画界最大のイデオログとなる。

・都市計画学の確立に尽力。都市計画学会の実質的な創立者。

・東京の戦災復興計画の立案者。



「石川さんが盛んにあの論調でしゃべるわけです。まずちょっと、寄席に行つて聞いているみたいな感じで。私は、当時は役人というのは厳格なものだと思っていたものですから、何と変わった人がいるものだとつくづく感心したことがあります。しかし、本当によくできた人でしたね。」(「桜井英記先生に聞く」、『新都市』、37巻4号、1983年)

1 現在に生きる石川栄耀の仕事

(石川栄耀遺産10)

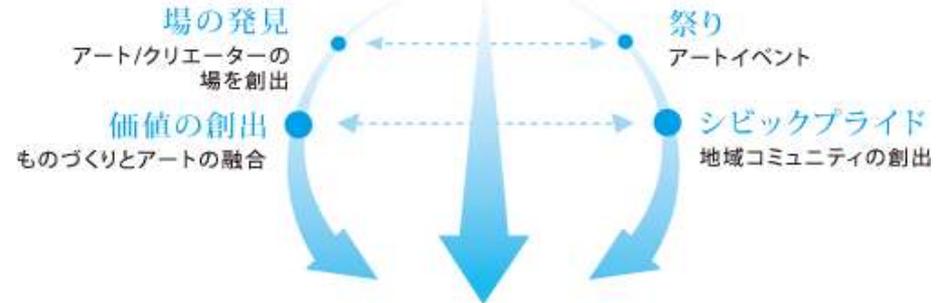


石川栄耀遺産01 中川運河(名古屋市)

中川運河チャンネルアート

(2010年～)

チャンネルアート



都市のイメージアビリティ向上
世界から人の集まる感性都市へ

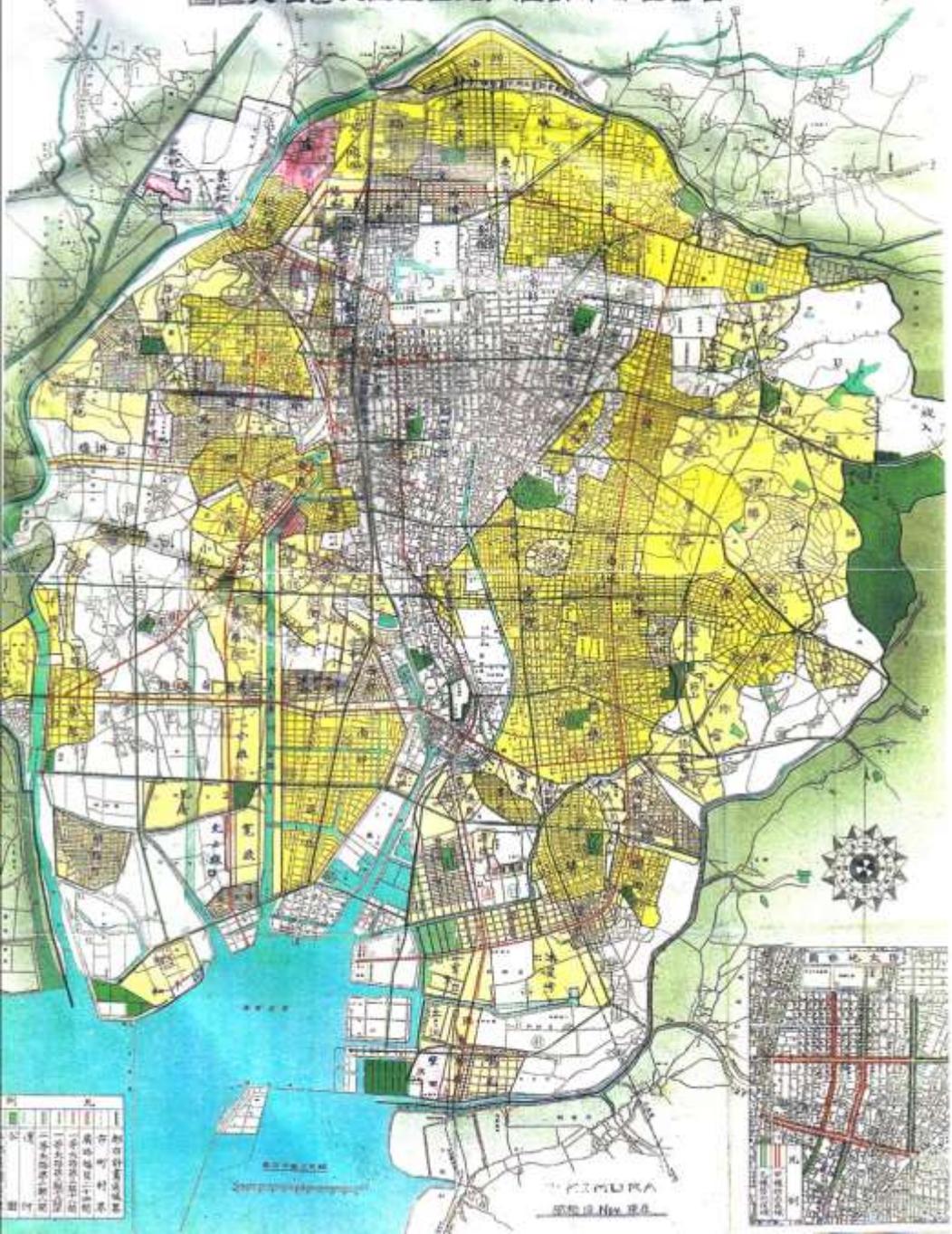
感性を育む名古屋の新しい水辺





石川栄耀遺産02 穂波町/松竹町(名古屋市田代地区)

名古屋都市計画街路公園土地整理区域図



戦前期の六大都市の区画整理達成率(1945年時点までの市域面積に対する区画整理済み地区面積の割合)

名古屋市	56.10%
東京市	31.30%
横浜市	4.50%
京都市	5.50%
大阪市	31.00%
神戸市	14.20%

1937年当時の土地区画整理事業実施地区(黄色)



本山駅(愛知)

名古屋高速2号東山線

© 2011 ZENRIN

© 2011 Geocentre Consulting

251 m

像取得日: 2007/1/1 2002

35° 09' 45.54" N 136° 57' 33.93" E 標高 22 m

Go

高度

■小公園(後に小学校用地に変更)を中心としたプラン

「今迄の我々の設計には有機的なところがない。どこにも中心がなく、土地用途の予見がない。一際の道路網はただ都市計画幹線に順応した碁盤割であった。(中略)中心を造る事の好い事は私も知ってる。知ってるどころか、都市計画技術者の唯一のヴァニティは地上に自分の永久の夢を印する事だ。永久の夢が碁盤割ではたまらない」

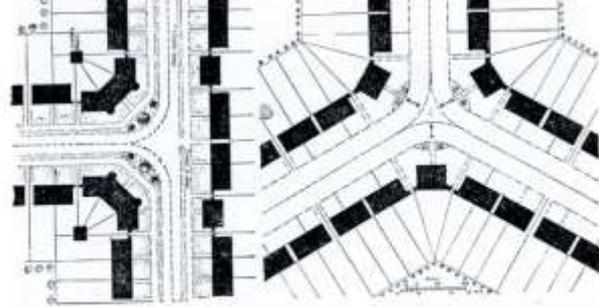
「問題は中心に何を選ぶべきかにあるのである。それは社会公共的な意味をもち、親和的な意味をもち、そして最後に決して『他となる』おそれのないものであればそれでよい。自分は小公園を探しあてた」

(「名古屋の区画整理の特質(上)」『都市問題』9巻4号、1929年)

■放射状の街路網を基本としたプラン

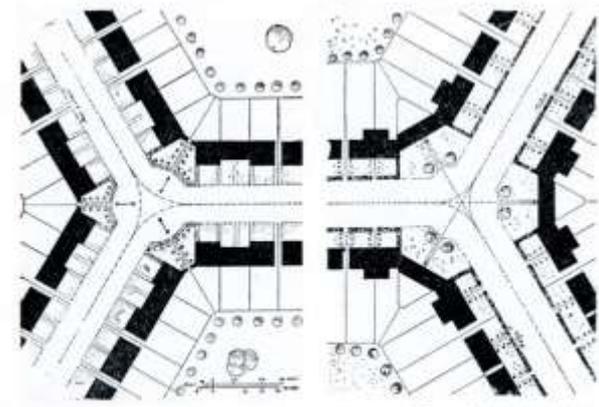
「心理的に結合すること。(中略)放射循環形式に広場を適当に配する組立ての場合、各街路はそれに面する各家屋の共通前提となり従ってそこに小さきCommunityの萌芽が発生する」

(「郊外集落結成の技巧」『都市公論』13巻10号、1930年)



Illus. 252—Row of cottages designed to turn the streets.

Illus. 253—Symmetrical arrangement for the junction of three roads, with detached projecting buildings forming street terminus. See illus. 251.



Illus. 254—Three-road junction with arched openings as revivous feature of each road.

Illus. 255—Three-road junction with continuous roof line maintained. See illus. 254.

Town Planning in Practice (1909) より

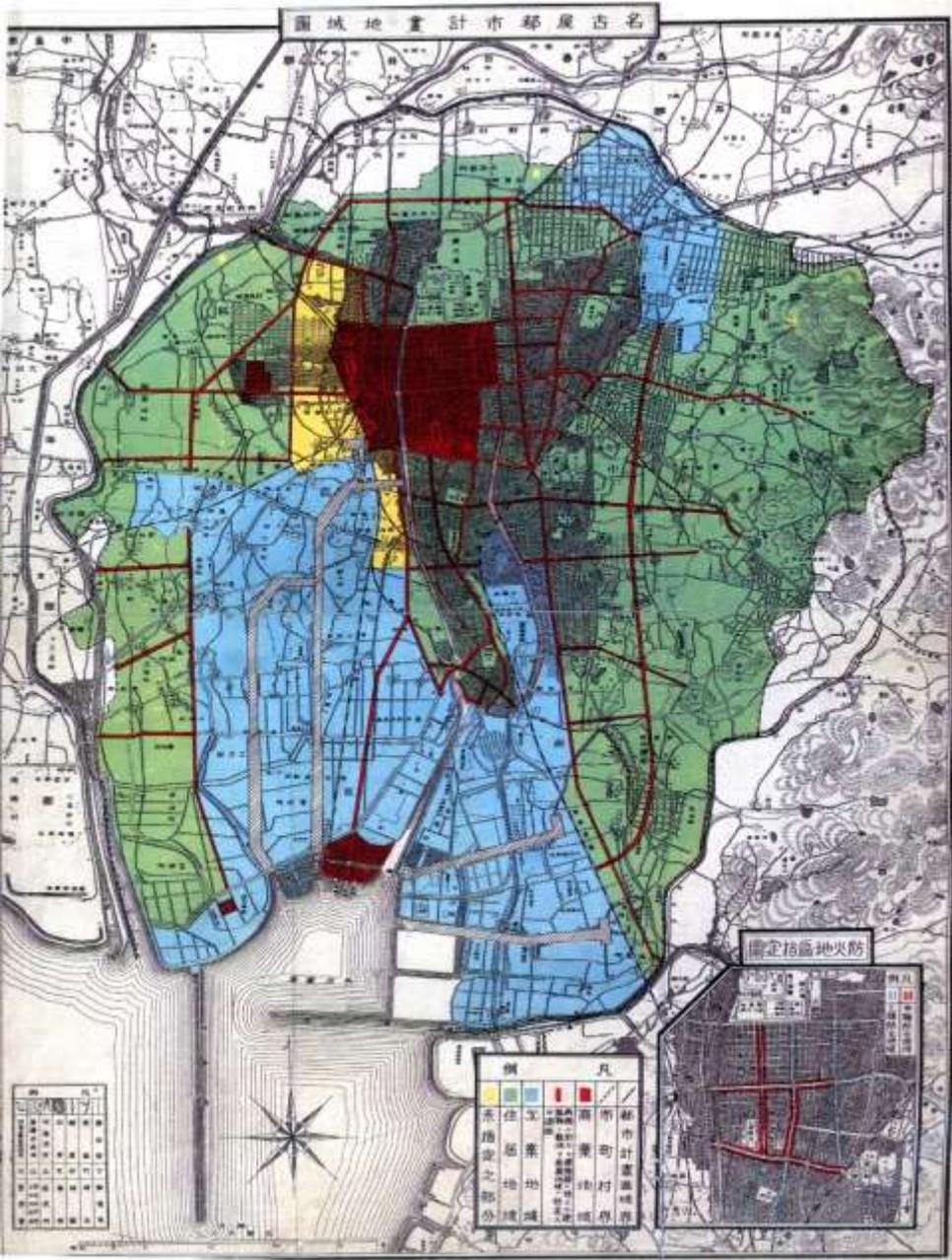
レイモンド・アンウィン

(Raymond Unwin, 1863-1940)

- ・「イギリス都市計画の父」。最初の田園都市レッチワース、田園郊外ハムステッドの設計者。
- ・ハムステッドではY字構成を多用。そのY字に面する敷地のつかい方(アイストップとなる建物や緑地を重視)についても、詳細に検討。

「ただ、この(Y字構成)にアンウィン氏は実に豊富な緑地を添える。その事が未だ広場の味を感得し得ない日本人等の心へは果して価値として、うつり得るや否や問題である。」
 「去りながら単に都市の黙々たる下僕であった都市計画技術家が、かくの如くして、散逸せんとする人類の結び目をより新鮮なる形式に於いて、回復する役目に僥倖するものであるとしたら、何と働き甲斐のある日々であろうか」

(「郊外集落結成の技巧」『都市公論』13巻10号、1930年)



「君達の計画は尊敬はします。然し私に云わせればキタンなく云わせれば、**あなた方の計画は人生を欠いている**。私の察した丈では此の計画は産業を主体にしている。いや、主体どころではない産業そのものだ。成程カマドの下の火が一家の生命の出発点である様に産業は立都の根本問題ではあろう。それに対しては何も云わない。然し、例えて見ても一家の生活においてもカマドの火は高々一時間で消される。そしてそれから後は愉快的茶の間の時間が始まるはずだ。産業は人間生活のカマドでしかない。むづかしく云えばそれは文化生活の基礎である。軽い語で云えば文化の召使である。あなた方はサーバントに客間と茶の間を与え様としてる」

石川栄耀「郷土都市の話になる迄 断章の二、夜の都市計画」
 (『都市創作』、1巻3号、都市創作会、1925年11月)

名古屋都市計画地域図(1924年)



石川栄耀遺産03 河馬の像(名古屋市東山動物園)



第2回動物祭(1933年)における座談会の様子

http://www.higashiyama.city.nagoya.jp/17_blog/img.php?ID=5394



石川栄耀遺産04 歌舞伎町シネシティ広場(旧コマ劇前広場)(新宿区)



ヒリヤード
Hiriyado

5F
Central Park

CODE 4F

カラオケ

新富プラザ劇場

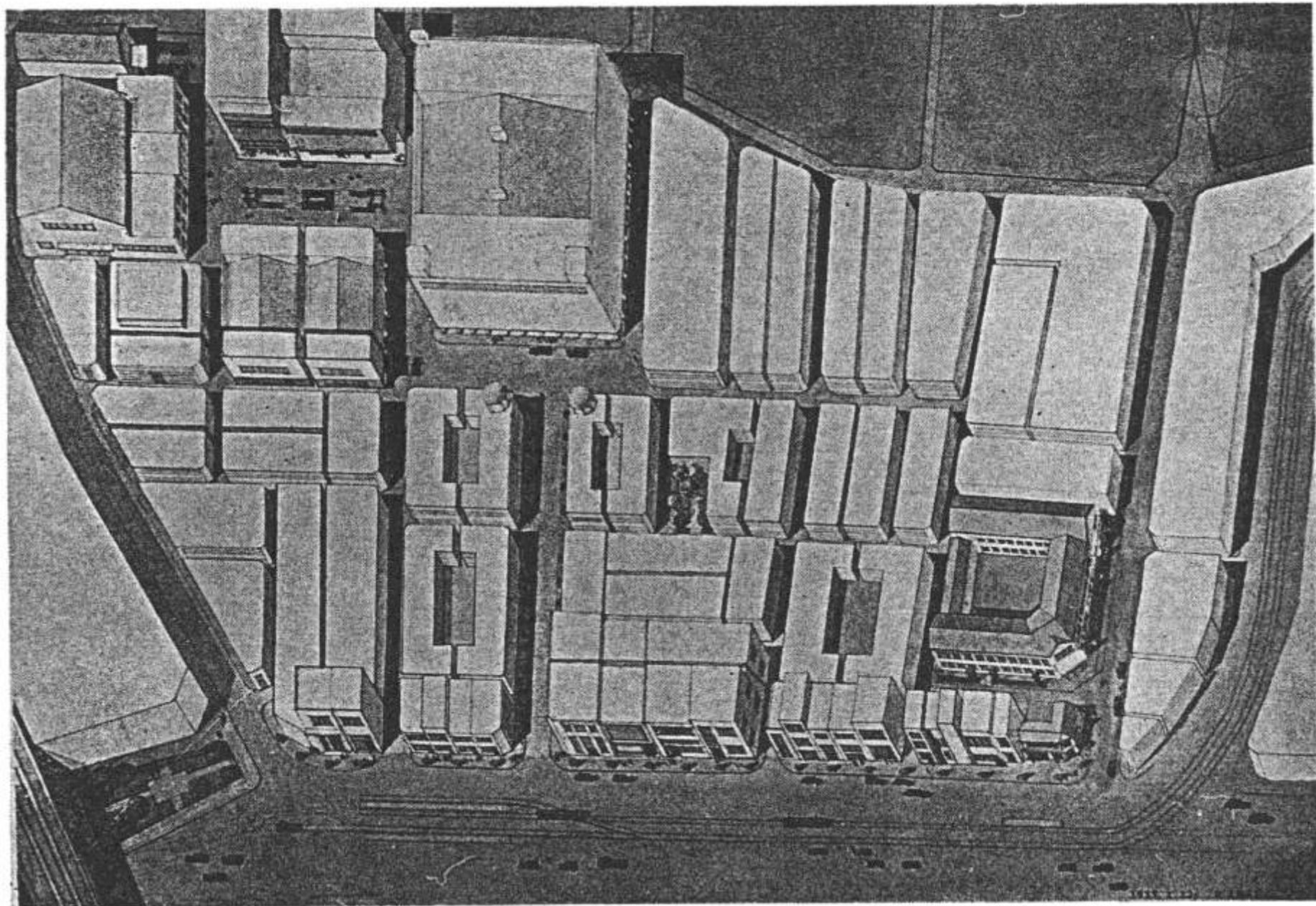
THEATRE
SHINRICHU PLAZA
THEATRE

KAMA

カラオケ

カラオケ

復興後の歌舞伎町鳥取圖





石川栄耀遺産05 パティオ麻布十番(港区)



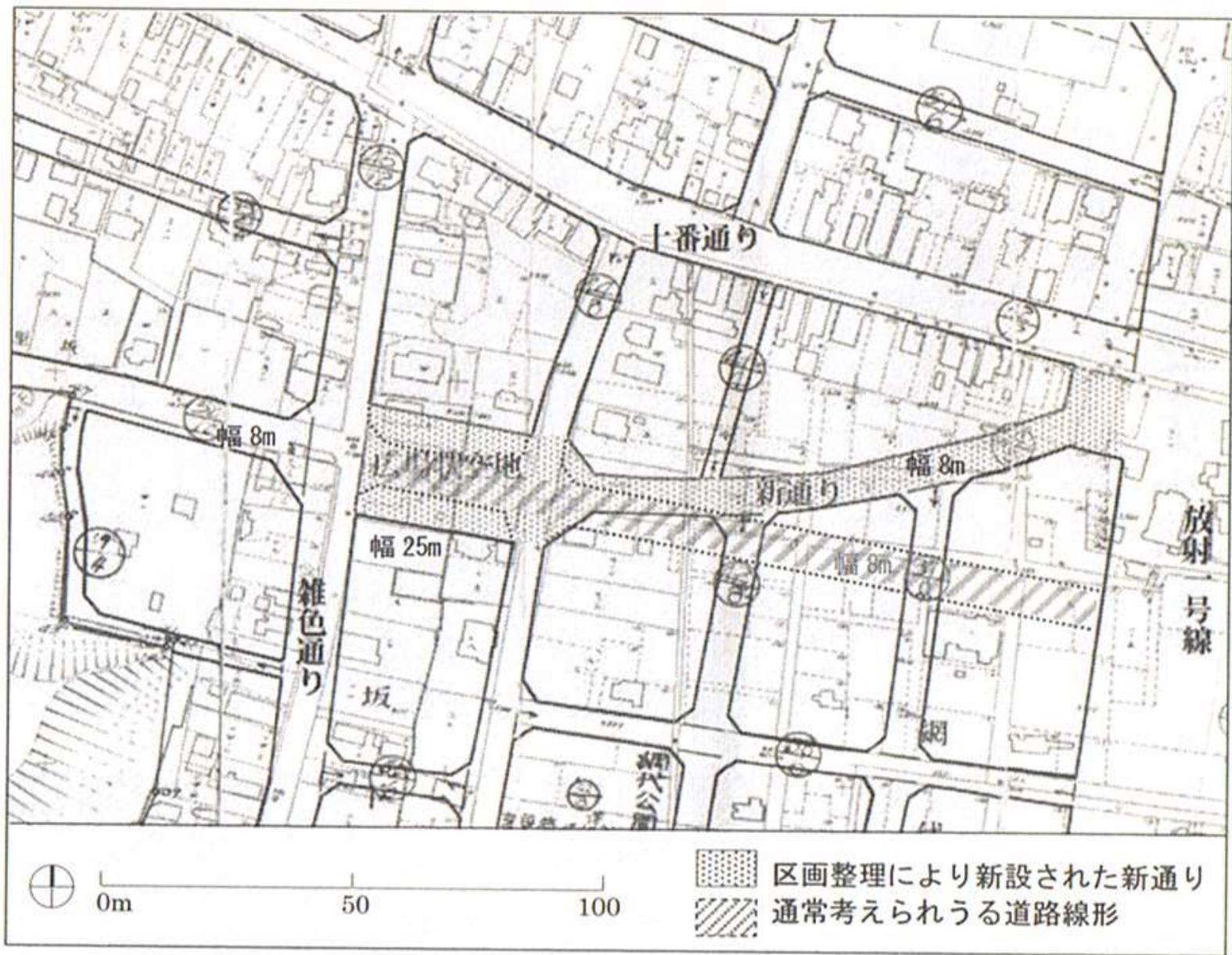
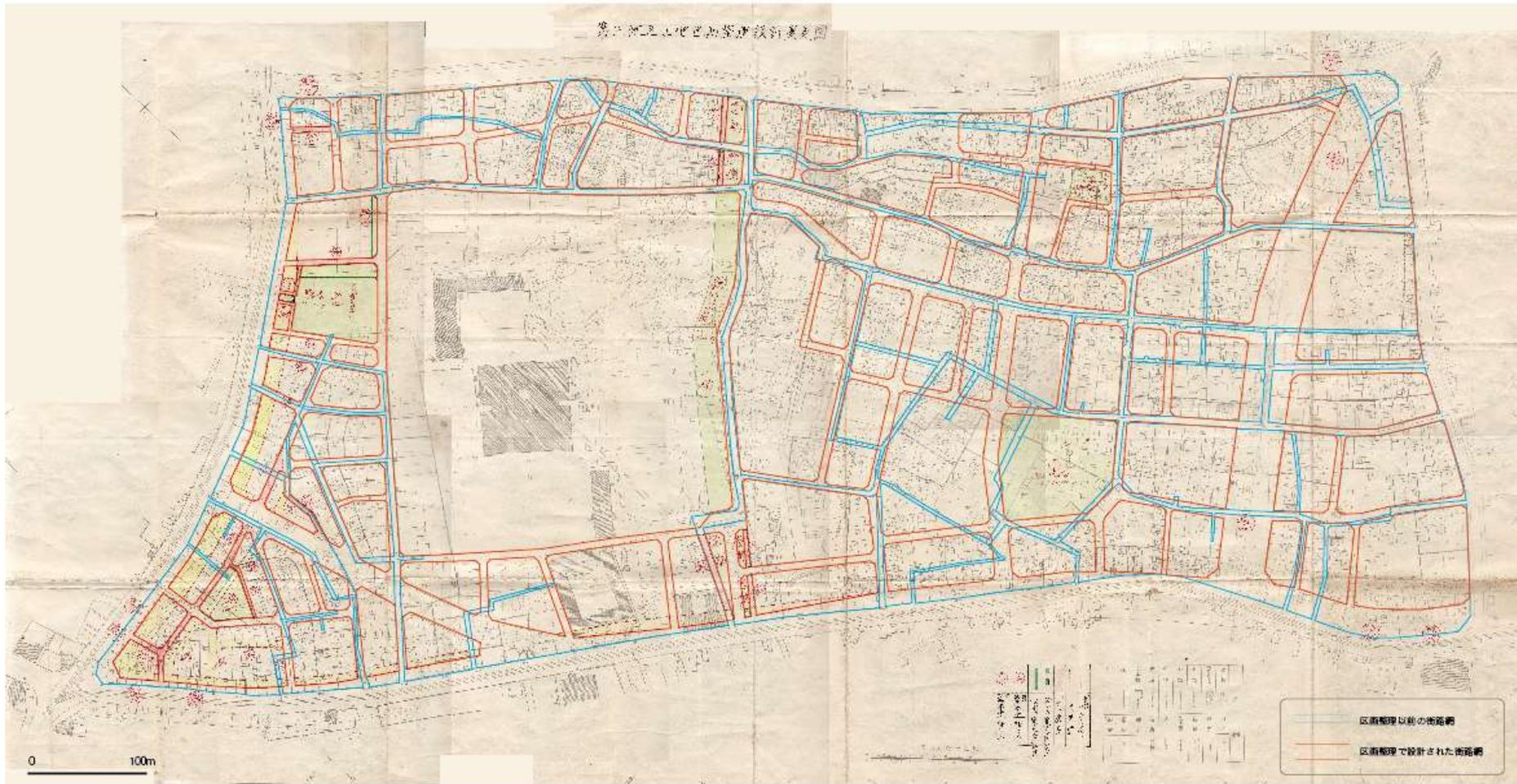


図56 区画整理によって新設した新通りの線形検討。

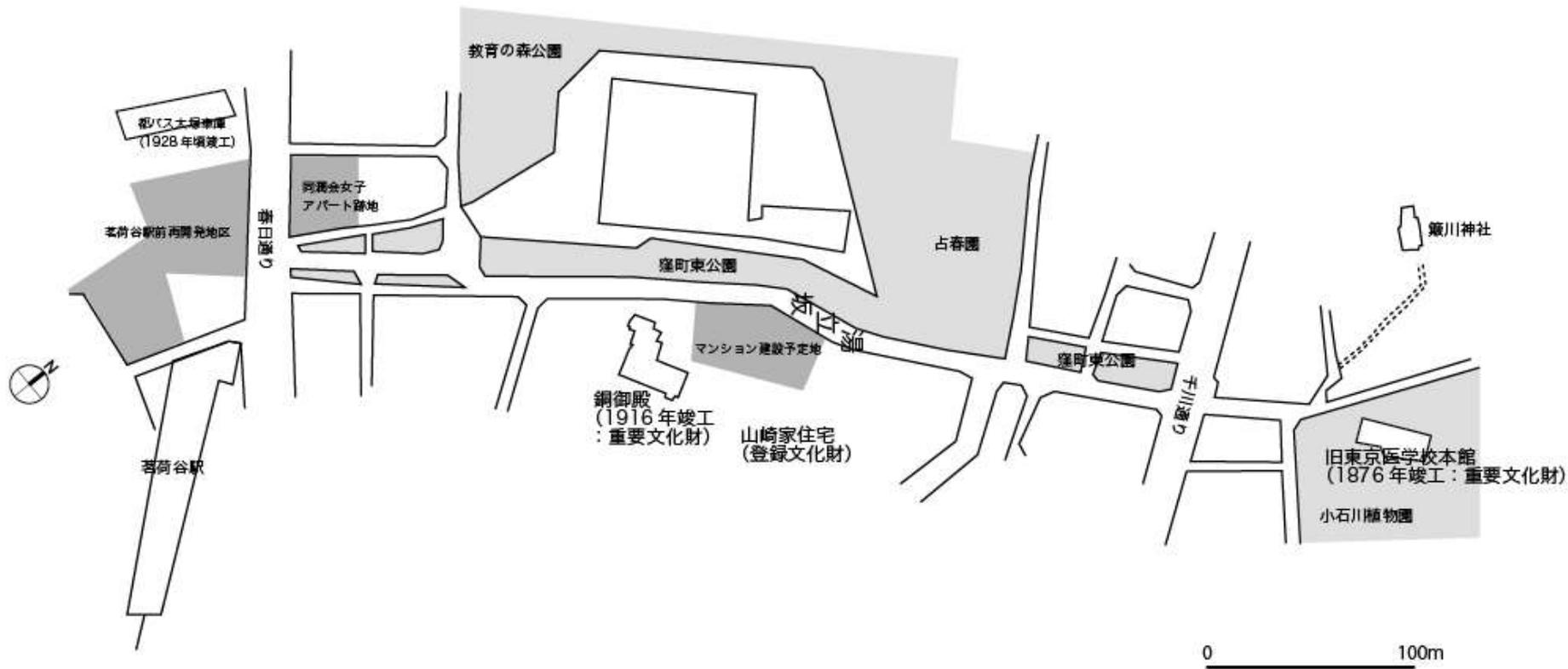
(『都市計画家石川栄耀より、西成典久氏作成)



石川栄耀遺産05 湯立坂(文京区)



戦災復興土地区画整理事業(第三地区区画整理設計変更図)



都バス大塚車庫
(1928年竣工)

本町台駅前再開発地区

有馬川

教育の森公園

聖公会女子
アパート跡地

窪町東公園

古春園

マンション建設予定地

網御殿
(1916年竣工
: 重要文化財)

山崎家住宅
(登録文化財)

窪町東公園

千歳川

鎌川神社

旧東京医学校本館
(1876年竣工: 重要文化財)

小石川植物園

吾高谷駅

0 100m

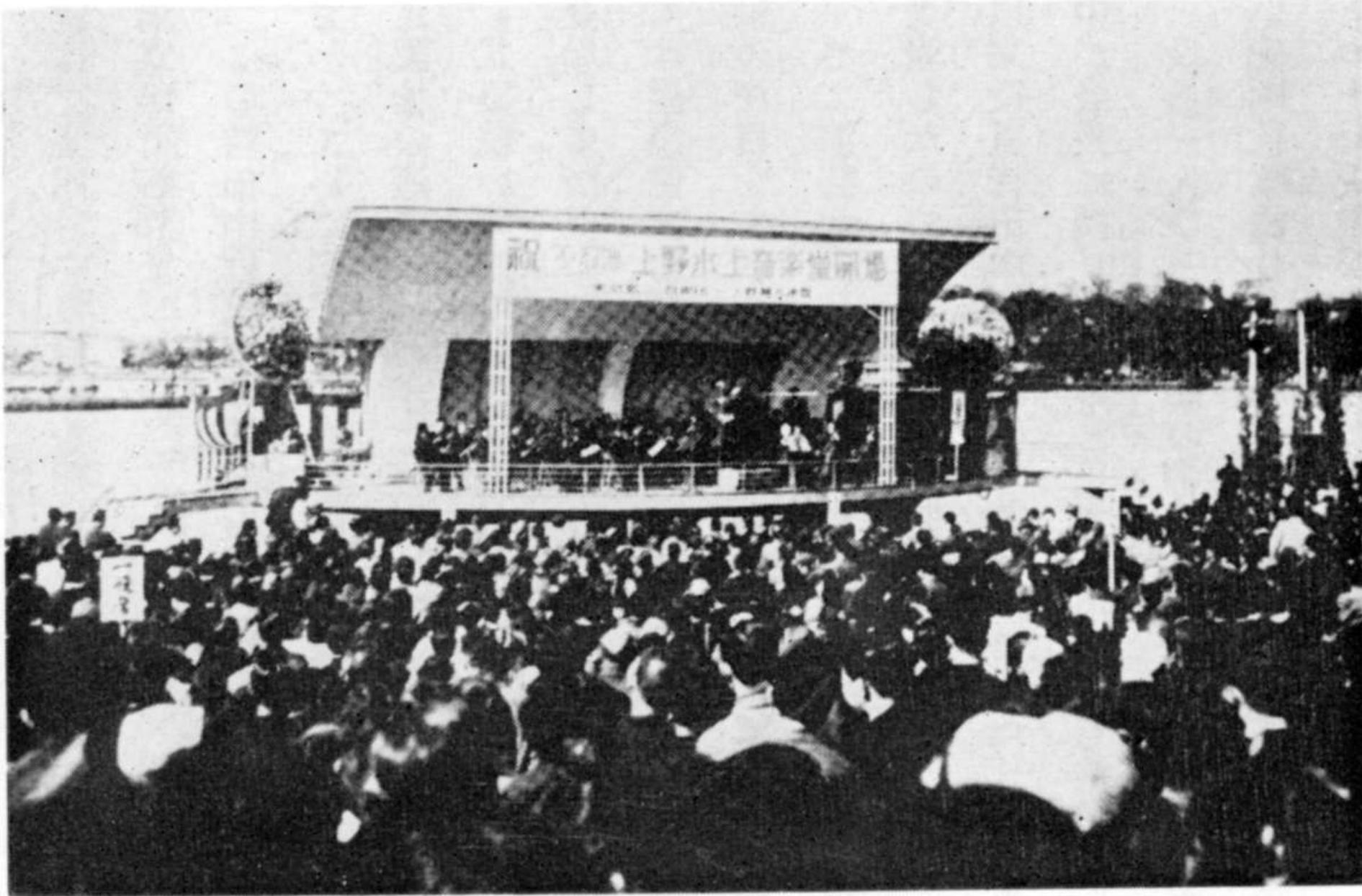




石川栄耀遺産07 不忍池(台東区)



不忍池埋立反対運動(『上野繁昌史』、上野観光連盟より)



上野水上音楽堂(1950年) (『上野繁昌史』、上野観光連盟より)



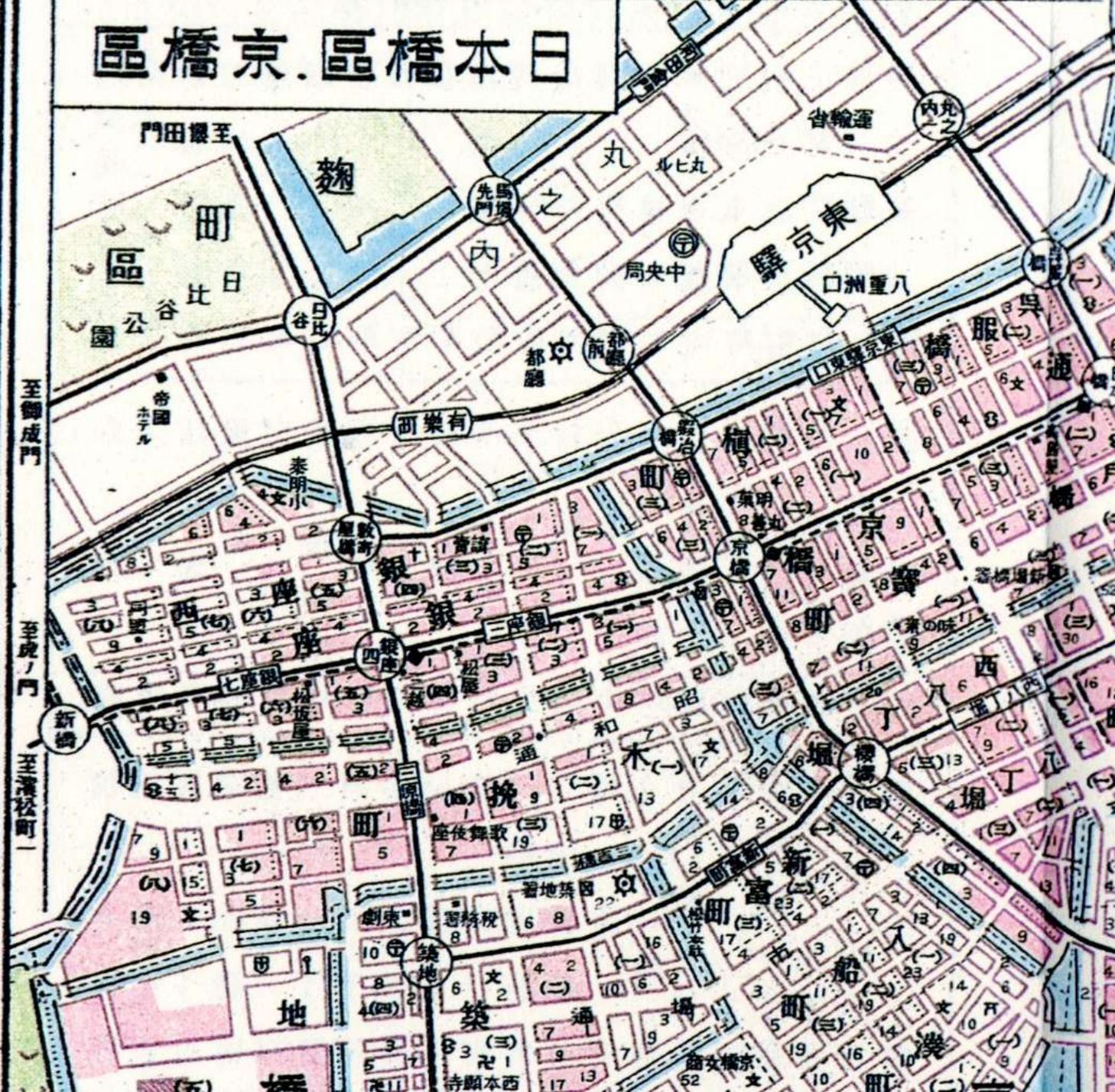


石川栄耀遺産08 東京高速道路線(中央区)

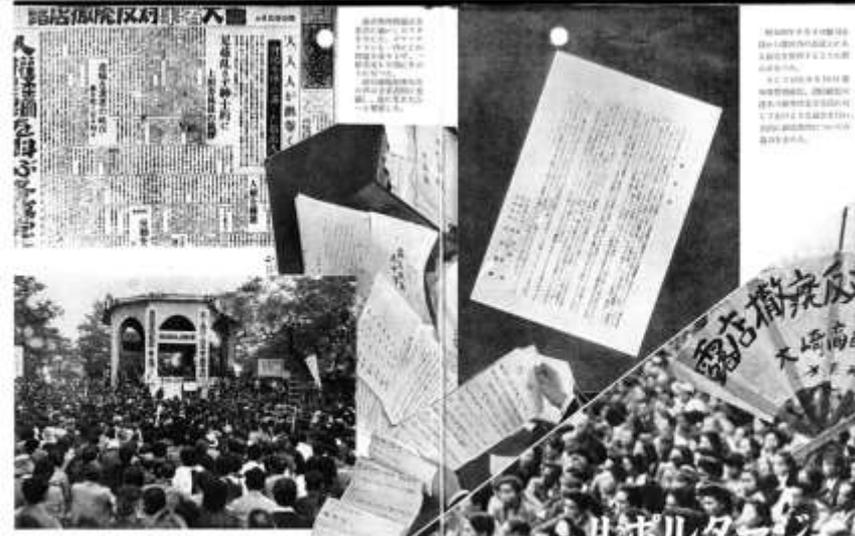




日 本 橋 区 京 橋 区

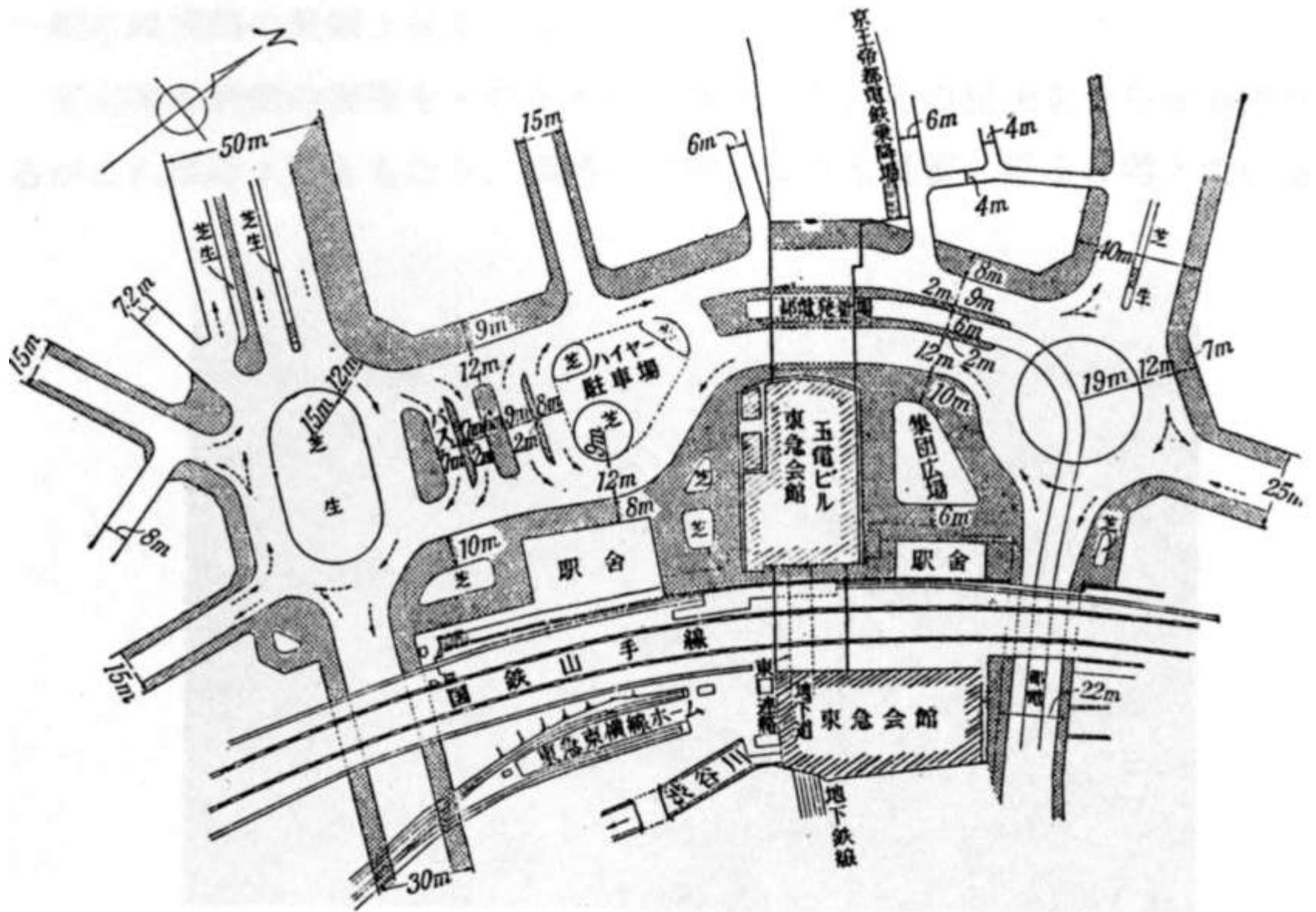


『戦災焼失区域表示コンサイス東京都35区区分地図帖』、1946年





石川栄耀遺産09 しぶちか(渋谷区)



平面は都電。地上二階部分に国電，玉電，東横。地上三階部分に地下鉄。

第 146 図 東京都市計画渋谷駅広場 (著者指導)

北館

南館

※状況によりオープン予定日が変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。



※マップ内の店舗名をクリックしますと、各ショップのページへ移動できます。

※店内改装工事などにより、掲載の店舗が変更となる場合がございます。

JR線 東武東上線
丸ノ内線 西武池袋線

西武百貨店
Seibu Department Store
有楽町線 副都心線
丸ノ内線 西武池袋線
JR線 西武池袋線

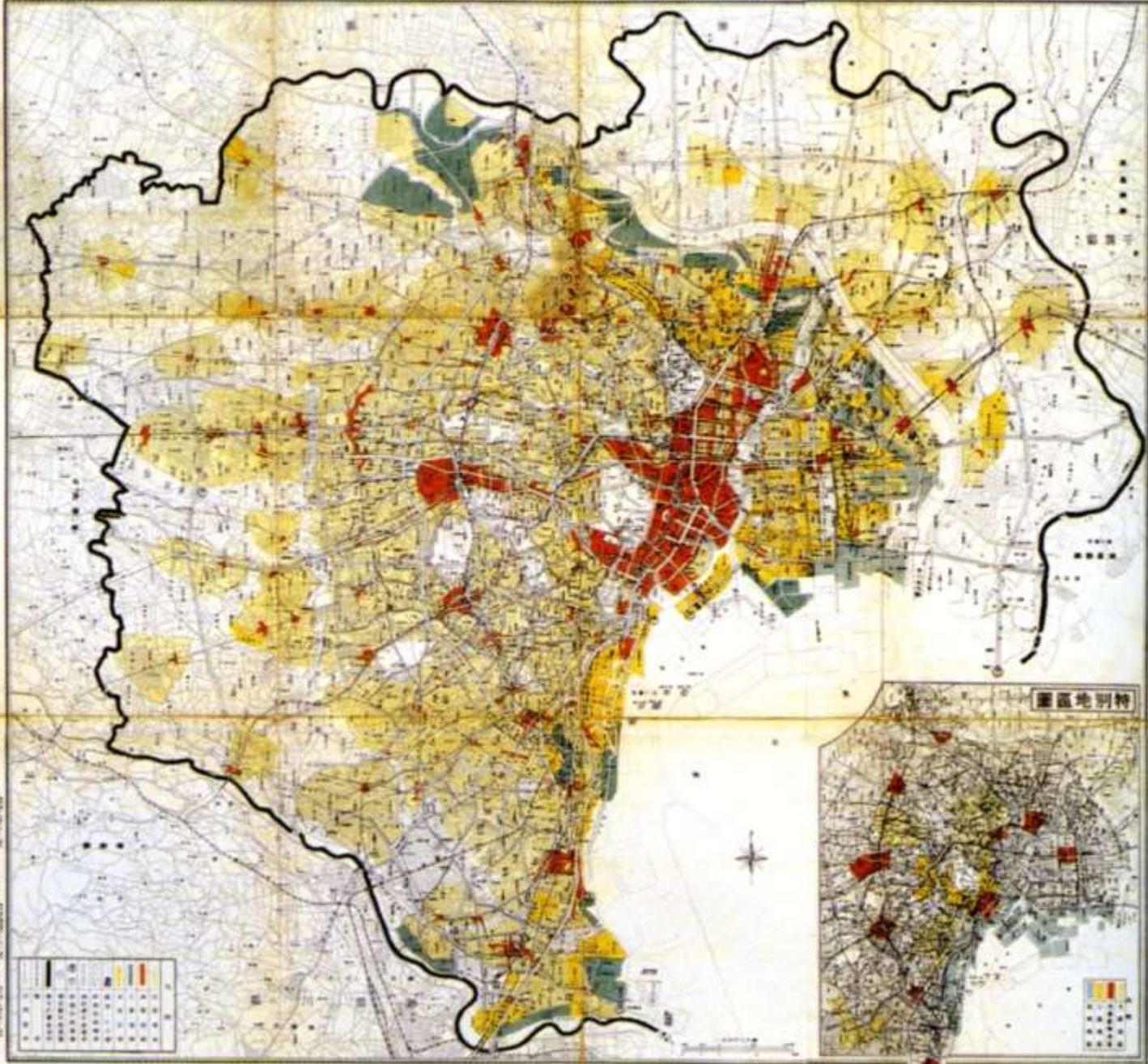


石川栄耀遺産10 中野サンモール(中野区)



1951年から52年頃の中野北口美観商店街

東京市計畫地城指定圖



東京市建設局 編 東京市建設局 印

特別地區圖

2 都市計画家・石川栄耀の位置づけ

石川栄耀(1894-1955)

- 1918年 東京帝国大学工科大学土木学科卒
- 1920年 内務省入省、名古屋都市計画地方委員会技師
- 1923年 欧米長期出張、IFHPアムステルダム会議出席
- 1926年 都市創作会、理事
- 1933年 都市計画東京地方委員会技師
- 1943年 東京都計画局道路課長
- 1945年 東京都計画局都市計画課長
- 1948年 東京都建設局長
- 1951年 早稲田大学理工学部教授

・名古屋で土地区画整理事業で実績をあげるとともに、都市創作会を組織し、都市計画研究・言論活動を活性化。「手段としては区画整理。精神としては小都市主義。態度としては都市味倒。」『都市創作宣言』『都市創作』、5巻10号、1929年

・数多くの著作、巧みな講演、そして分野を超えた豊かな交流と実践活動によって、我が国都市計画界最大のイデオログとなる。

・都市計画学の確立に尽力。都市計画学会の実質的な創立者。

・東京の戦災復興計画の立案者。



「石川さんが盛んにあの論調でしゃべるわけです。まずちょっと、寄席に行つて聞いているみたいな感じで。私は、当時は役人というのは厳格なものだと思っていたものですから、何と変わった人がいるものだとつくづく感心したことがあります。しかし、本当によくできた人でしたね。」(「桜井英記先生に聞く」、『新都市』、37巻4号、1983年)

旧都市計画法で最も功績があり、かつ、最も典型的な旧法下の都市計画官

「座談会 石川栄耀と日本都市計画」、『都市計画』、182号、1993年

戦前期における都市計画の展開と都市計画家

・都市計画法適用都市数

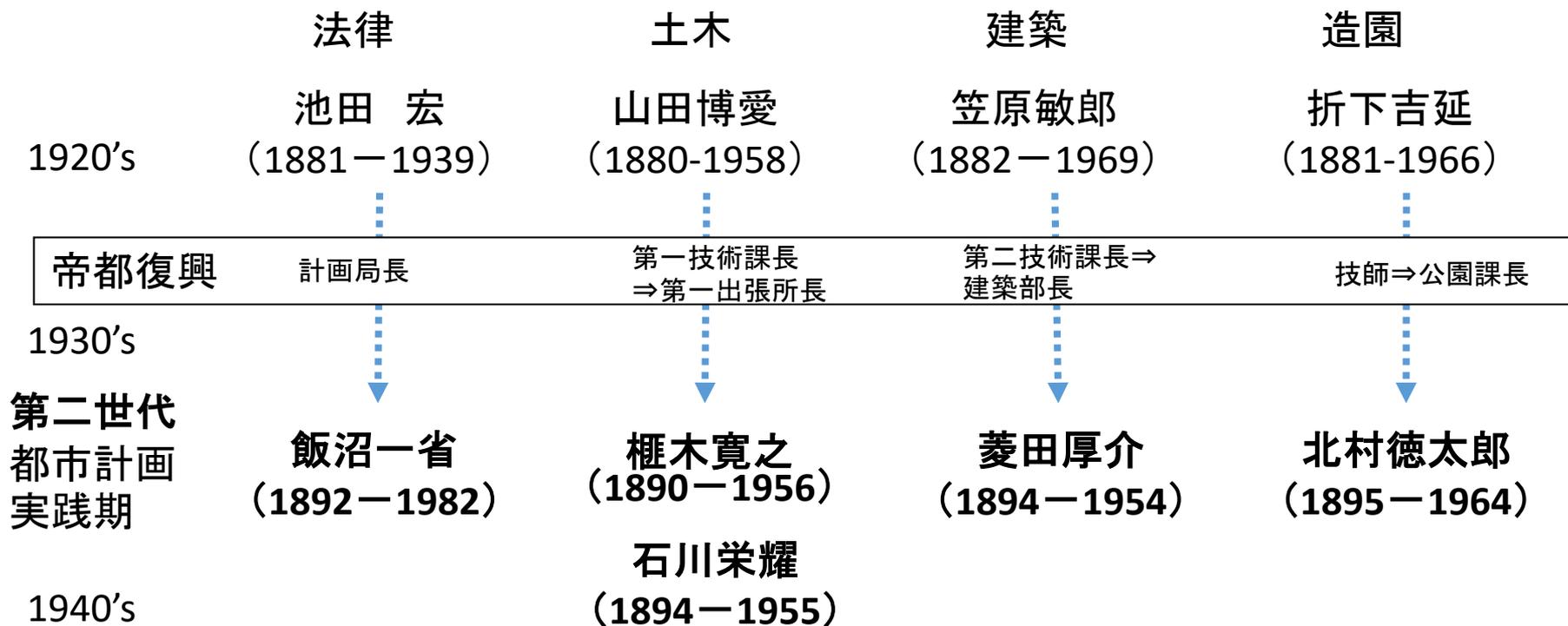
1923年 31都市

1926年 49都市

1930年 97都市 ※ただし、用途地域指定＝市街地建築物法適用は27都市のみ

1932年 105都市(当時全都市数は120都市)

1933年 都市計画法改正 町村でも適用可



榎木寛之(1890-1956)

1916年 東京帝国大学工科大学土木工学科卒
1920年 内務省採用、都市計画東京地方委員会技師
1923年 欧米各国へ長期出張
1924年 内務省大臣官房都市計画課勤務
1930年 東京帝国大学土木工学科で「都市計画」を講義(～1952年)
1937年 内務省大臣官房都市計画課主任技師退任以降、各地の都市計画を顧問や専門委員として指導。戦後はキング設計事務所顧問、ホプキンス・マンフレ一事務所の顧問として民間コンサルタント業を開拓。

・本省の主任技師として、長年、全国の都市計画を指導。特に、三陸津波からの復興計画、山中温泉大火からの復興計画、函館大火からの復興計画などでは、深く計画立案に携わった。

・内務省内での都市計画技師の地位向上に尽力し、技師課長ポストを実現させた。

「僕だけでも頑固に、強くしてなかったら、都市計画の域は守れないからね。」(野坂相如「榎木さんを想う」『榎木寛之君追憶集』、1957年)

・長年、東大にて「都市計画」の講義を担当し、多くの後輩を育てた。



「自らペンを握られることは殆どなく、ヒントを与え、批判をされるやり方であるが、今でもこんな人がいて欲しいと心から思う。平素恐い先輩であった榎木さんはまた部下の面倒は仲々よく見られた。」(町田保「思い出る儘に」『榎木寛之君追憶集』、1957年)

復興前中山市街地



復興後中山町街地



山中温泉の復興計画

(1931年大火、1933年都市計画法適用、1935年山中町土地区画整理組合設計正式認可)

「十数年経過して色々の記憶が去った後に山中町を訪問したとする。そして美しい温泉町を山の中に見出したとする。そして徐ろに記憶を繰って見てああ火事があって焼けた事があった、復興事業をやるとかやらぬとか騒いだ事があった。そして町の人が異口同音に此際復興事業を敢行しようと決心した事がに記憶が蘇ったとする。そして自分もほんの少々手助けをやった事を思出す。か様な愉快的な思出を持つ人が他にも大勢居られるだろうか。」

（榎木寛之「復興事業所管」『復興の山中温泉』、1935年）

「榎木先生と石川先生とは、ウマクないことがしばしばあったようです。ウマがあわなかったといった方が当たっているかも知れない。
(中略)然し先生の都市計画に対する熱意に於いては、何等石川先生のそれと隔たりがあろう筈もありません。石川先生が突如として物故された時、後輩たる石川先生の霊前否枕頭で、石川君の仕事は今後僕が果たすよと云われて、滂沱、嗚咽にむせばれたことは、私の最も感銘する処であります」
(山田正男「追憶断片」『榎木寛之君追憶集』、1957年)





- ・ともに1920年採用の都市計画地方委員会一期生。
- ・榎木は本省、石川は地方で活躍。
- ・榎木は省内での都市計画の地位向上を、石川は社会における都市計画の地位向上を目指した。
- ・榎木は東大第一工学部(本郷)で講義、石川は東大第二工学部(千葉、1942年設置)で都市計画を講義。

第一世代
都市計画
法制定期

法律

官の系譜

土木

建築

造園

池田 宏

(1881-1939)

山田博愛

(1880-1958)

笠原敏郎

(1882-1969)

内田祥三

(1885-1972)

折下吉延

(1881-1966)

『都市公論』

帝都復興

計画局長

第一技術課長
⇒第一出張所長

第二技術課長⇒
建築部長

技師⇒公園課長

1930's

第二世代
都市計画
実践期

飯沼一省

(1892-1982)

榎本寛之

(1890-1956)

石川栄耀

(1894-1955)

菱田厚介

(1894-1954)

北村徳太郎

(1895-1964)

1940's

戦災復興

『新都市』

東京都

山田正男

(1913-1995)

『都市計画』

早稲田
武 基雄

(1910-2005)

東大
高山英華

(1910-1999)

京大
西山卯三

(1911-1994)

佐藤昌

(1903-2003)

1950's

公団

今野博

(1922-)

井上孝

(1917-2001)

吉阪隆正

(1917-1980)

丹下健三

(1913-2005)

第三世代
都市計画
隆盛期

1960's

学の系譜

都市工学科

浅田孝

(1921-1990)

田村明

(1926-2010)

自治体

東大同期



⇒満州

⇒満州

⇒満州

『区画整理』

『建築行政』

『公園緑地』

『都市計画』

京大

自治体

3 現在に生きる

石川栄耀の言葉(思想)30

石川の「都市計画」をかたちづ くったものは何か？

－ 「人なつかしさ」から広場、盛り場・商店街へ

春のゆうべをただひとり

蘭のかたへに生きてあり

うれしからずやわれひとり

蘭のかたへに生きてあり

大正七年―十年頃の作

2

『人なつかしさ』『話す人なしでは寂しくてたまらない』
『相手ほしい心』

「小都市主義への実態」『都市創作』3巻1号、1927年

3

市民よ。都市とは家屋の集合ではない。道路ではない。都市とは市民の化合体である。市民の心の化合体である。「相むつみ合う心」なき市民によって何で都市が成立し様。

「市民倶楽部三相」『都市創作』4巻4号、1928年

4

愛の都市への無限の郷愁をいただく心がひく鉛筆は
たとえ同じ二点間の最短距離でもどこかに味の違い
がでやしませんか

「愛知の都市計画(九)」『中央銀行会通信録』284号、1926年

5

日本へ帰り日本の都市を見てる中に浮かんで来たのは、彼等の都市に広場があったということである。何か彼等の都市は日本の都市と違う。それは広場があるというところであった。広場があるのではない、広場を中心に都市が出来てるという事であった

「私の都市計画史」、『新都市』、6巻9号、1952年

6

日本の商店街は、ただの商品売場ではない。広場のない都市に育った日本人が、たくまズして造り上げていた社会中心が、盛り場であったのである

『余談亭らくがき』、1956年

7

今日都市がこの盛り場を無くしたら都市はない。都市がない所か「人間そのもの」がなくなるのである

「現代盛り場価値論 附＝東京の盛り場」、都市美、30号、1940年

8

ユカタや、開襟シャツの軽快さが邪道視され易い。それは実に世の中の『味い』を無くすのみならず、泣かんで好い人を泣かす。実に下らない。それに抗議したいのです。

「都市美と広告の関係」『広告研究』昭和14年版、1939年

9

真の市民意識は（何とそれが日本に於て皆無であることか）、特に日本の現代都市においてはお祭りによってのみ醸成さるべきものである

「街路を演舞場とするお祭りの製造」『岩手日報』、1930年11月7日夕刊

石川は、なぜ、「都市」を問うたのか？

— 「都市計画」と「都市」との縁を求めて

『都市計画』と云う華々しい名前を有ちながら
自分達の仕事がどうも此の現実の『都市』とド
コかで縁が切れてる様な気がしてならない

「『盛り場計画』のテキスト 夜の都市計画」、『都市公論』、15巻8号、
1932年

1 1

自分の走りによって都市計画技師という得体の解らぬ現代の産物の本態に対する解釈としよう

「地価の考察その他 『郷土都市の話になる迄』の断章の追補」、『都市創作』、4巻8号、1928年

1 2

我等は先づ常識の対象としての都市計画を超え、正統学派としての『都市学』の樹立を期したい。

「巻頭言」『都市創作』1巻1号、1925年

1 3

手段としては区画整理。
精神としては小都市主義。
態度としては都市味倒。

「都市創作宣言」『都市創作』、5巻10号、1929年

とまれ、都市の問題にたずさわって既に二十有余年になる。今では膏肓に入って、旅に出ても風景よりは都市を味う様に偏ってしまった。都市を通じて表現される人類の味が大らかでなつかしいのである。その都市がここに大きく転換せんとするに当面し云い様なき感慨を感じる。都市を失いたくない。

15

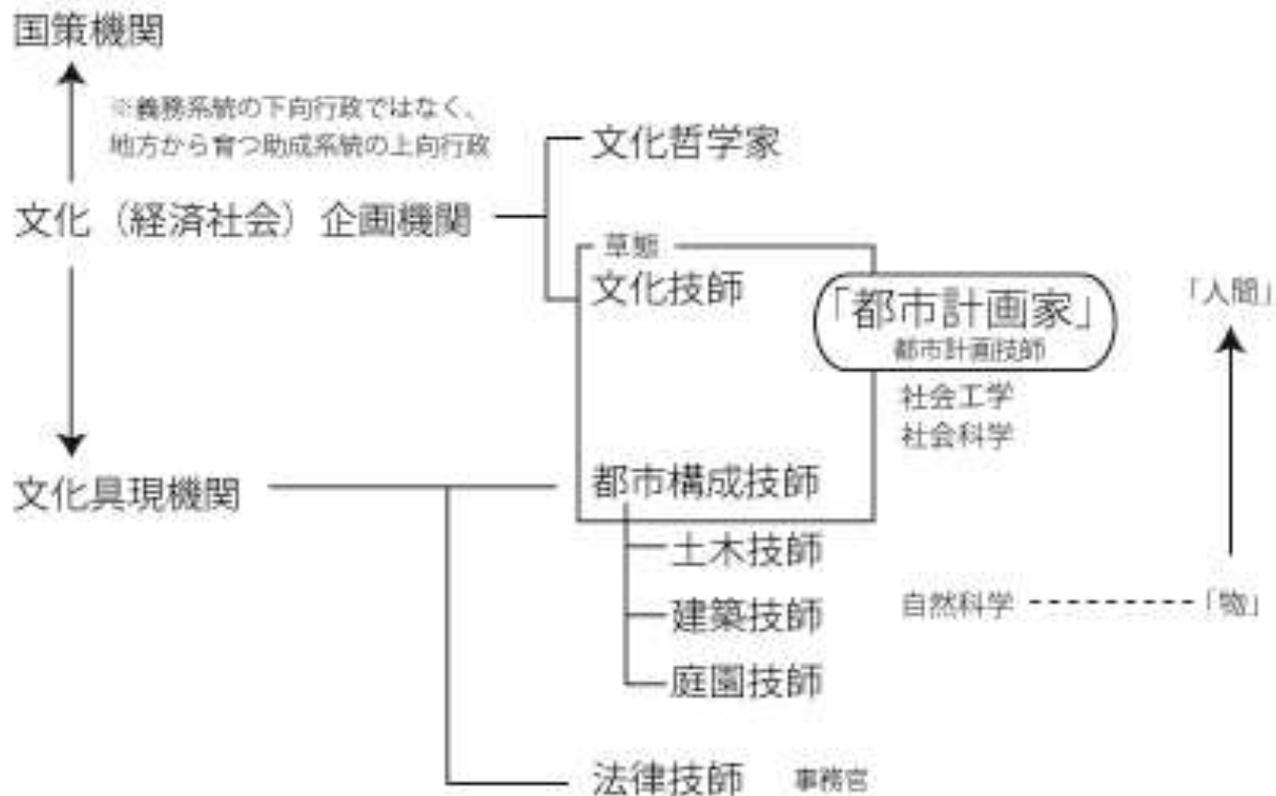
君達は相当なインテリの積りであろうが、本当の事をいえば君達は都市というものを知らない。君達は都市というものを見た事がないのだ

「都市発見」、ニューエイジ、1巻9号、1949年

16

文化学の修得。経済、社会の勉強じゃ。つづいては
眼の前にある自分の町の認識じゃ、都市学的な認
識じゃ。

「都市計画地方委員会技師論」、『都市公論』、21巻3号、1938年



17

之(注:都市計画)は大地の上に繁栄してゆく人類社会を認識し助成し誤りのない様育ててゆく行政ぢや。ぢやから問題は先ず原地の都市そのものから沸いて来る。云ひ様によりや原地の都市そのものを朝夕好う見とりやそこにアリアリと都市計画が描いてある筈じゃ。都市計画技師はただそれをハッキリ捉えてものにしてやりや好えのじゃ

「都市計画地方委員会技師論」、『都市公論』、21巻3号、1938年

18

ここ(茶館)には何となく『都市』があるような気がして、よく出かけた

「上海 都市計画人吉村辰夫君をしのぶ」『都市公論』24巻8号、1941年

19

『都市計画』は『計画者が都市に創意を加えるべきものではなくして、それは都市に内在する『自然』に従い、その『自然』が矛盾なく流れ得るよう、手を貸す仕事である

『新訂都市計画及び国土計画』、1954年

20

自分の一番好きな英国の少年気質を表した話がある。それは、英国の少年に君達は何になりたいかと聞くと『第一にロンドン市長、第二にタイムズの編集長、第三に総理大臣』と答えるそうである。むろん、これは一種の風刺であろう。しかしいかにもありそうで嬉しい。

「市長学としての都市計画」『市政』2巻8号、1953年

石川が最後に突き止めようとした
「名都」とは何か？

—都市の詩情へ

2 1

人間一生涯の「物の考え方」はいろいろであろう。しかしともかく現実の問題として、「美しい都市に住む」ことが、人生の幸福の極めて基礎的なものであるということは、認めてもよいのではなかろうか（中略）美しい都市のつくることは君達の責任だ。

『都市美と広告』、1951年

22

日本の都市美が欧米の(というよりは、ヨーロッパの)それに比し後進的であるという考え方に対し、むしろ「日本の都市が、ヨーロッパのそれのように造型的に的確でないことが却って動的な、新しい形態にあることを物語るのではないか

「名都の表情 条件と分類」『市政』、1954年

23

其の町を作ってゆく新しい市街に心がけ、人心の豊
かなる育成と申しますか、理性と申しますか、之が
集って都市としてのポエジーが出来上がる

「広義都市計画の考え方」、『第五回全国都市計画協議会会議要録』、
1952年

24

都市は詩情を有つ。むしろ都市の本質はその詩情にある。それを誰が唄うであろうか

「誰か東京を唄う」、『東京だより』、26号、1951年

結局、都市計画とは何なのか？

25

都市を作るとゆうことは我々の住家を作るとゆうことである。人間の郷土をつくとゆうことである。然らば郷土とは何かとゆうと、私は結局、詩であると思う

「広義都市計画の考え方」『第五回全国都市計画協議会会議要録』、1952年

26

社会に対する愛情、
それを都市計画と云う

『改訂都市計画及国土計画』、1951年

社会に対する認識が愛によって整理された時、イタ
ツラな『機智』がその中の矛盾を遊ぶ。矛盾故に高
揚された善意をたのしむ。それがゆうもあであったの
である

『余談亭らくがき』、1956年

近況御報告申し上げます

家内一統。家、職業その他變らず。たゞ吉例により人口増加。遂に結婚十五年にして九人の家内となりました。

此を計算致しますと年一五パーセント。大東京に對する五倍の力であります。

榮耀。一四十四歳。一

厄年大過なく経過。

體重十四貫七百。二十年來舊の如し。たゞ多少の霜をピンパツに加へました。

ゴルフは未だにハンデイ附かず。

清子一三十五歳。一

同じく厄年を見送りました。第六子分娩。

厄年は「ハラムかネルカ」ご申す由。前者の方で御座いました。

近來多少肥へ初めました。

和装論に轉向。

近況御報告

石川榮耀家内一同

明けましてお目出度う存じます

昭和十一年元旦

石川榮耀家内一同

東京市豊島區長崎南町一丁目一八八三
榮耀勤務先 都市計畫東京地方委員会

近況御報告申し上げます

家内一統、寧、職業その他變らず。たゞ吉例により人口増加。遂に結婚十五年にして九人の家内となりました。

此を計算致しますと年一五パーセント。大東京に對する五倍の方であります。

榮耀。一四十四歳。

厄年大過なく経過。

體重十四貫七百。二十年來舊の如し。たゞ多少の霜をゼンパツに加へました。

ゴルフは未だにハンディ附かず。

清子一三十五歳。

同じく厄年を見送りました。第六子分産。

厄年は「ハラムかネルカ」を申す由。前者の方で御座いました。

近來多少肥へ初めました。
和装論に轉向。

九一十四歳。宿望の武蔵高等學校にトモカクモ入學。伸びて居ります。

次の望は早く下級生が出来る事。

ジロウキウセイがコウクテナタマリマセン。

中一十二歳。

東郷大將の勳像を前にして勉強して居ります。

此の夏は激で一等を取りました。そして、あくる日、ブクブク致しました。

なぜベンキョウするのか？ クウキジロウがほしいからであります。

壽子一九歳。

お土産に妹壽子と共に小さい石けん、シヤパン箱とゴムのあかすり、バケツを買つて貰ひました。

お湯に入つて壽子を洗つてやる事がウルシクナりました。

倫子一七歳。

丈夫になりました。よく妹の面倒を見ます。さここはおはへたのか、またフクガゼのオド

り云ふのをやります。暖いタキタテの御飯がキライでサブイゴハン許りたべます。

圭子一四歳。

最父を好みません。泣く時は必ずお父ちやんバカと諷刺します。

それがいつの間にかケイコバカになつてます。それに気がつく泣くのを止めます。

コ、ハドコのホリミチヂヤ云ふ唄をおはえました。そして「ニンジンサマのホソミチヂヤ」を唄ひます。ナモ皆がそれを笑ふのが解りません。

玲子一三歳。

漫遊の「内閣總理大臣岡田啓介閣下」の様な鼻と口とシワをして居ります。

泣くぞ、ソレガ皆コンガラかつてしまひます。

櫻井さし子一二十二歳。

お嫁さんの賢ひ手が多くて、歸つて居ります。

常人は自虐。

元本年は薄礼しなくてはなりません。

允一十四歳。一

宿望の武藏高等學校にトモカクモ入學。伸びて居ります。

次の望は早く下級生が出来る事。

ジヨウキウセイがコワクテタマリマセン。

中一十二歳。一

東郷大將の銅像を前にして勉強して居ります。

此の夏は泳ぎで一等を取りました。そして、あくる日、ブクブク致しました。

なぜベンキヨウするのか？ クウキジウがほしいからであります。

恭子一九歳。一

お土産に妹倫子と共に小さい石けんごシヤバン箱とゴムのあかすりごバケツを買つて貰ひました。

お湯に入つて倫子を洗つてやる事がウルシクテたまりません。

倫子一七歳。一

丈夫になりました。よく妹の面倒を見ます。ここでおはへたのか オタフクガゼのオド

り云ふのをやります。

暖いタキタテの御飯がキライでサブイゴハ
ン許りたべます。

圭子―四歳。―

最父を好みません。泣く時は必ずお父ちや
んバカと連呼します。

それがいつの間にかケイコバカになつてま
す。それに気がつくごと泣くのを止めます。

コ、ハドコのホソミチヂヤミ云ふ唄をおほ
えました。そして「ニンジンサマのホソミチ
ヂヤ」を唄ひます。ナゼ皆がそれを笑ふのか
解りません。

玲子―二歳。―

漫画の「内閣總理大臣岡田啓介閣下」の様
な鼻ミロミシワをして居ります。

泣くこと、ソレガ皆コンガラかつてしまいま
す。

櫻井こし子―二十二歳。―

お嫁さんの貰ひ手が多くて、弱つて居りま
す。

當人は自重。

尤本年は落札しなくてはなりません。

慶春

昭和三十年元旦

石川榮耀家内一同

家内近況御報告

石川榮耀—五十九才十六ヶ月、早大大学院教授、内地洋行中(予定三百都市半数済)ゆうもあくらぶ常務理事、(昨年の著書首都物語)。

清子—五十才十三ヶ月、高田外国語学校監事、ニコニコ子供会理事長(子供達にタダの映画を見せる会)、石川榮耀「旅行秘書」。

圭子—二十一才、YMCA英語学校在学、流行歌袋耳、石川家合唱隊指揮者、

元且桜井美方氏(小松製作所技師)と婚約。玲子—十九才、文化学院在学、桐ノ江氏につき油絵の勉強—但しホメルト二、三日やめる、好く猫を拾う。

石川允(長男)—三十一才、首都建設委員会技官、妻美美子二十六才、長男栄(チヤカ)四才、オヂイチャンは「オイ!!」で

ありオバアチャンは「オフクロー!!」である、「ゴーゾーキーサン」と云うのをやつてる由、長女匠子(シヨコ)一才。

石川中(次男)—二十九才、東大分院医局員、妻登代子二十六才、長女映子三才、親ゆずりの大眼玉、「映ちやんのおハナは？」、「ダンゴ」を相変らず。

杉浦清治—三十九才、東大本院医局員、妻恭子(榮耀長女)二十六才、長男隆之三才(ターチ)小型西郷隆盛(但し銅像)、次男誠之一才(セシ・ボン)。

山下英一—二十九才、三菱重工技師、妻倫子(榮耀次女)二十四才、長女牧子一才チツチキ、オヤヂさんに入ミシリする。

【山下家丈は川崎市戸手町の戸手アパート】

家犬 ビルネ(シエバート) 子供八匹

ホキ(雑種)

家猫 ポリ(不妊の手術済み)

家内近況御報告

石川栄耀——五十九才十六ヶ月、早大大学院教授、内地洋行中(予定三百都市半数済)ゆうもあくらぶ常務理事、(昨年の著書首都物語)。

清子——五十才十三ヶ月、高田外国語学校監事、ニコニコ子供会理事長(子供達にタダの映画を見せる会)、石川栄耀「旅行秘書」。

圭子——二十一才、YMCA英語学校在学、流行歌袋耳、石川家合唱隊指揮者、元旦桜井美方氏(小松製作所技師)と婚約。

玲子——十九才、文化学院在学、桐ノ江氏につき油絵の勉強——但しホメルト二、三日やめる、好く猫を拾う。

石川允(長男)——三十一才、首都建設委員会技官、妻芙美子二十六才、長男栄(チヤカ)四才、オヂイチャンは「オイ!!」で

神を信じ、神に頼れなかった男。芸術を愛し、芸術に没頭出来なかった男。学問にあこがれ、学問に殉職出来なかった男。俗世間を軽べつし、而も俗世間を無視出来なかった男。

小都市を愛し、大都市を讃え、古きを尊びながら新しきにつく彼の幾重にもおり重なった精神過程」を露わにし、石川の都市計画を「彼の主張や学問上のねらいが、かなり大きな都市計画技術の革命であり、同時のその革命に対する疑問と反省に終始悩み続けていたらしい。

運命的な孤独感にたえずいらいらと腹を立て、而もそれに歯向っていたのではなかったか。

あの人ぐらい、あの当時街の人の為に力づけてくれる人はなかった。文化寄席ばかりでなしに、ハッピーを着て街の盆踊りには一緒に踊ってくれたし、街の発展策に夜おそく迄商店の人と話し合ってくれたり、全く惜しい人をなくしたものだ

根岸情治『都市に生きる 石川栄耀縦横記』、1956年



石川は近代日本における都市に対する最もポジティブな夢想家、ロマンティストであり、探求者であった。そして、だからこそ、「都市計画」に自由に親しむことができた。石川の思想と生涯、つまり都市探求の軌跡は、そうした事柄を現代の私たちに想起させるだろう。

都市計画家 石川栄耀

都市探求の軌跡

中島武人
西成典久
初田香成
佐野浩祥
津々見崇 著

鹿島出版会

講義のスケジュール

－ 導入

9月25日 第1回 導入：なぜ、都市計画史なのか

－ 近現代日本の都市計画史

10月2日 第2回 日本における「都市計画」の誕生と官庁プランナーたち

10月16日 第3回 都市計画家・石川栄耀のレガシー

10月23日 第4回 若き高山英華と都市計画学の生成

※12時より避難訓練があります。

10月30日 第5回 敗戦・復興、そして都市計画の民主化

11月6日 第6回 高度経済成長期の東京と山田正男

11月13日 第7回 東大都市工の誕生と東大紛争

11月20日 第8回 建築家・大高正人の都市デザイン

11月27日 第9回 田村明と横浜の都市づくり

－ 都市計画史の現場

12月4日 第10回 東日本大震災と都市計画史

12月11日 第11回 地域に向き合う都市計画史

12月18日 第12回 「パブリック都市計画史」への展望

－ 学生発表（予定）

1月15日 第13回 都市計画史をひらく（仮）